公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2017年
8月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・1
・大磯の海でアオバトに出会う＋Young 探鳥会（東京）
・夕涼み観察会～ツバメのねぐら入り観察会～（奥多摩支部）
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・5
（2017年6月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・7
・ツバメのねぐら入り観察会を開催しました
・2017年度版「探鳥会保険のご案内」を発行いたします
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・9
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・10
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・10

◆探鳥会訪問記

大磯の海でアオバトに出会う＋Young 探鳥会（東京）

【日程】2017年7月22日（土）
9時00分～11時30分
【場所】照ヶ崎海岸 （神奈川県大磯町）
【参加者】80名
【リーダー】5名
【協力】（株）ニコンイメージングジャパン
（株）文一総合出版

■探鳥会の概要

春から秋にかけて、神奈川県大磯町の照ヶ崎海岸には、海水を飲むためにアオバトが飛来することが知られています。今回は、その様子をじっくり観察する探鳥会です。小学生から若者、シニア層まで幅広い年齢の参加者が集まり、20～40代の若手5人がリーダーとして活躍していました。中には、今日初めてリーダーを務めるという方もおられました。

■観察の様子

ＪＲ大磯駅前に集合し、受付や注意事項の説明の後、照ヶ崎海岸に移動しました。移動中も、アオバトの群れが上空を飛び交っていました。15分ほどで目的地に到着。ニコン社製の双眼鏡を貸し出し、いよいよ観察開始です。

観察の間、次々と10～20羽程のアオバトが飛来しました。アオバトたちは磯に降りたつと、潮だまりに嘴をいれて海水を飲み、また山の方へ飛び去っていきます。磯には、常に波が打ち寄せているので、ときには、波にのまれそうになるアオバトの姿に、参加者のみなさんは一喜一憂していました。

今回の探鳥会は、定点観察のため移動はありません。海岸で待っていると、アオバトは次々と飛来し、肉眼で容易に見つけることができます。色が美しい鳥で、海水を飲む様子や、降りそうでなかなか降りない群れの動きなど、その行動には見どころがいっぱい。初心者も子どもたちも興味を持って観察されていました。

▲海水を飲むアオバト※

また、大磯町で長年アオバトの観察や調査研究をしている市民団体「こまたん」の金子さん、斎藤さんから、アオバトの解説をしていただきました。この時期は幼鳥が飛来しはじめる時期で、翼の模様で見分けることができること、他の鳥が通ったり、人が近くで騒いだりすると、すぐに進路を変更してしまうくらい臆病な鳥であること、鳴き声の特徴など、たくさんのみどころを教えてくださいました。調査に基づく詳細な解説には、ベテランバードウォッチャーたちも初めて聞く情報が満載のようでした。

当日は晴天で、30 度を超える暑さ。砂浜には、日陰はありません。リーダーのみなさんは、熱中症にならないよう、塩分補給用のアメを参加者に配布したり、水分補給を促したりと、きめ細かな配慮がみられました。

暑さが厳しいため、終了予定時刻より少し早めに解散した後、有志で海岸から 3km ほど離れた大磯町郷土資料館へバスで移動。企画展示「ようこそアオバト楽会へ」を見学しました。見学の前には、資料館前の芝生広場の木蔭でランチタイム。会話を楽しみながら、和やかに過ごしました。食事の後は、Young 探鳥会恒例（？）のじゃんけん大会。絵葉書やシールなどの野鳥グッズの争奪戦が繰り広げられました。再度、「こまたん」の方々から熱意あふれる解説をいただきながら展示を見学した後は、場所を移動し、有志による懇親会が繰り広げられたそうです。

▲次々と飛来するアオバトを砂浜から観察

▲ベテランもうならせる「こまたん」の方々の解説

▲アフターバードウォッチングも充実。涼しい木蔭でランチタイムの後は、じゃんけん大会

■参加者の声

30 代女性：子どもが鳥が大好きなので、父親はいつも探鳥会情報を集めています。家の近くで探鳥会があると、参加していますが、アオバトは初めて見たので子どもも喜びました。

40 代女性：最近入会し、他の探鳥会でこの探鳥会をすすめられたので、母親と一緒に参加しました。望遠鏡で見たアオバトはとてもきれいでした。

■感想

今回は、通常の探鳥会と Young 探鳥会の合同で開催され、初心者からベテラン、子どもからシニアまでさまざまな参加者が集う探鳥会でした。移動もなく、観察対象もわかり易いこと、解説が充実していることなどから、初心者もベテランも、子どもも大人も楽しめる探鳥会でした。

Young 探鳥会は、アフターバードウォッチングも充実していて、参加者同士の交流が深まる仕掛けがあることも特徴です。交流の機会を重ねることで、ゆくゆくはリーダーとして活躍する若手が増えれば、というベテランリーダーたちの想いを感じました。

また、日本野鳥の会東京の会員以外にも、大磯町の隣町・平塚市在住の学生バードウォッチ

ャーや、日本野鳥の会埼玉の Young 探鳥会のリーダーも参加していて、支部の垣根を越えた、若手の交流の場にもなっていました。

※アオバトの写真は、日本野鳥の会埼玉の廣田純平さんが探鳥会当日に撮影されたものです。ご提供ありがとうございました。

（普及室／江面康子）

夕涼み観察会～ツバメのねぐら入り観察会～（奥多摩支部）

奥多摩支部の「夕涼み観察会～ツバメのねぐら入り観察会～」に参加してまいりました。この観察会は申込不要のイベントとなっており、昨年は 100 名を超える参加者が集まりました。今年も多くの方の参加が見込まれたことから、財団職員もお手伝いをさせていただきました。

【日程】2017 年８月５日（土）
16 時 30 分～19 時 20 分
【場所】多摩川の川岸
（東京都日野市、八王子市）
【参加者】197 名（会員：46 名、非会員：151 名）
【リーダー】17 名（奥多摩支部 10 名、財団職員７名）

▲観察場所まで、土手の道を歩きます

■探鳥会の概要

観察場所となる多摩川のヨシ原には、万単位のツバメのねぐらがつくられます。奥多摩支部では昨年から、この場所でツバメのねぐら入り観察会を開催しています。今年のねぐらの場所は、昨年から数百m移動したそうですが、近くに住んでいるリーダーが連日観察を重ねていたため、場所を特定できました。

今回は、集合場所から観察場所まで約 4km 離れていること、また 200 名近くの参加が見込まれていたため、開催の１週間前には、奥多摩支部の方々と財団職員が下見をし、当日の運営について打ち合わせを行いました。

■観察の様子

当日、支部のリーダーと財団職員は集合場所である日野駅交番前に１時間前に集合し、改めて観察会の流れや運営を確認しました。

集合場所から観察場所までは、参加者を以下の手順で案内しました。

（１）参加者が日野駅交番前に集合
（２）スペースのある受付場所へ誘導
（３）受付場所にて、受付、配付物を配布、観察場所までの移動手段（徒歩 or バス）の確認
（４）徒歩 or バスでグループ分け
（５）それぞれ約 25 名が集まったところで、リーダー２人がついてグループごとに観察場所へ移動

受付でお渡しした配布物は、「ツバメのねぐらマップ」、帰り道のご案内、暗いところで光るブレスレットです。受付場所からツバメのねぐらの観察場所までは約 ４ ㎞であることを説すると、「運動になるから」「４㎞くらいなら」と、徒歩を選ぶ方が多く、最終的には７グループのうち５グループが徒歩となりました。

徒歩での移動は、まず住宅街を抜けて、多摩川の土手に向かいます。土手に着いたところで、リーダーが自己紹介をして、観察会の流れや、観察場所からの帰り道の確認をしました。土手を歩きながら、リーダーはツバメやヨシについて話したり、スコープでカワラヒワやアオサギを紹介したりと、和やかな雰囲気で進みました。また、この場所に詳しいリーダーが、
「このあたりにはきまった時間になるとキツネがやってくるそうです。」
と説明すると、参加者はみな驚いた様子でした。

観察場所に到着すると、参加者の方々は立ち話をしたり、敷物や折りたたみいすに座ったりして、思い思いにリラックスしていました。なるべくツバメを驚かせないために、土手の道からは外れずにツバメを待ちます。観察場所の近くには公衆トイレは無いのですが、事前にリーダーが近くの施設に相談をして、参加者が施設のトイレを使えるようにしてくださっていました。

また、観察場所はジョギングをする方や、自転車で通る方がいる土手の道ですが、リーダーたちが気を配り、通行の際には「自転車の方が通ります」などと、大きな声を掛けていました。そのおかげで、通行人とのトラブルはほとんどありませんでした。

薄暗くなると、周りから小さな群れとなったツバメがいろいろな方向からやってきます。群れは次第に大きくなり、あたりが暗くなったころには、たくさんのツバメが参加者の頭上を旋回しはじめました。ツバメの群れがこちらに向かって飛んでくるたびに、
「おお～！」
「すごーい！」

▲ねぐらの観察場所の様子

▲ねぐらが橋や住宅地のすぐ近くにあります

と参加者から声が上がります。目の前を無数のツバメが舞うなか、
「こんなにたくさんのツバメがいても、来年ここに戻ってこられるのは 1 割か 2 割くらいかなあ。」
というリーダーの言葉に、この景色がいっそう感動的に見えました。

ツバメたちがねぐらに入った後は、観察場所にて解散となりました。希望する人はヨシにとまっているツバメを、リーダーのライトとスコープで観察。こちらも
「かわいい！」
と大人気でした。

■まとめ

参加者の方々のなかには、探鳥会に参加したことがないという方も多くみられました。「ツバメだから」参加を決めた、という方もいて、街で暮らす人にとって、ツバメは野鳥のなかでも特別な存在であることを改めて感じました。ツバメ人気の高さもあってか、参加者の約 3/4 は会員ではない方々でした。

私自身は探鳥会の運営のお手伝いをさせていただくのは今回が初めてでしたが、事前に丁寧な地図や写真付きのレジメをいただき、戸惑うことなく行うことができました。今回の観察会は、

- 集合場所から観察場所まで徒歩で約 1 時間かかる
- 夕方から夜にかけての暗い時間帯に開催する
- 申込み不要なので、参加者の人数が分からず、多いことが予想される
- 通行人がいる道で、立ち止まっての観察をする
- 観察場所にトイレが無い

など、普段の探鳥会よりも多くの配慮が必要な状況だったと思います。それを乗り越えられたのは、支部の方々のチームワークや、事前の入念な準備があったからだと感じました。

（普及室／井上奈津美）

◆探鳥会保険集計結果（2017 年6月分）

6月は 65 支部からご報告をいただき、計 227 回の探鳥会が開催され、のべ 5,049 人が参加されました。

表 1. 6月の探鳥会保険集計結果（2017 年7月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	4	54	9	4	67
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	14	22	4	40
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	1	15	0	2	17
滝川支部	1	8	0	1	9
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	82	17	10	109
小樽支部	3	10	8	3	21
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	8	1	3	12
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	2	17	4	4	25
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	21	1	2	24
秋田県支部	4	39	8	4	51
山形県支部	2	10	4	3	17
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	2	28	8	7	43
北上支部	1	8	0	1	9
宮城県支部	2	32	20	4	56
ふくしま	2	45	4	4	53
郡山支部	2	29	0	5	34
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	0	0	11	11
会津支部	3	13	2	3	18
奥会津連合	0	0	0	0	0
いわき支部	1	18	1	1	20
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	7	74	27	10	111
栃木	−	−	−	−	−
群馬	8	75	32	23	130
吾妻	1	7	0	2	9
埼玉	6	160	58	44	262
千葉県	6	50	21	23	94
東京	11	310	4	53	367
奥多摩支部	8	114	57	29	200
神奈川支部	11	160	54	35	249
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	41	20	5	66
石川	3	25	35	17	77
福井県	2	9	0	9	18
長野支部	2	21	1	4	26
軽井沢支部	1	6	5	1	12
諏訪支部	1	10	25	2	37
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	−	−	−	−	−
甲府支部	1	33	1	2	36
富士山麓支部	1	9	10	3	22
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	−	−	−	−	−
南富士支部	3	97	21	5	123
南伊豆	1	3	0	2	5
静岡支部	−	−	−	−	−
遠江	2	40	15	7	62
愛知県支部	7	106	73	20	199
岐阜	−	−	−	−	−
三重	2	23	29	4	56
奈良支部	3	62	9	6	77
和歌山県支部	1	5	15	5	25
滋賀	4	29	41	7	77
京都支部	6	78	26	12	116
大阪支部	22	381	88	92	561
ひょうご	6	79	95	21	195
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	4	29	11	4	44
島根県支部	1	5	5	1	11
岡山県支部	4	87	49	12	148
広島県支部	4	43	39	5	87
山口県支部	3	25	16	3	44
香川県支部	3	130	52	4	186
徳島県支部	5	68	11	5	84
高知支部	−	−	−	−	−
愛媛	5	70	37	9	116
北九州支部	2	21	1	2	24
福岡支部	6	79	27	14	120
筑豊支部	5	66	6	5	77
筑後支部	4	25	9	4	38
佐賀県支部	2	47	11	2	60
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	5	58	18	6	82
大分県支部	1	10	5	1	16
宮崎県支部	2	13	12	2	27
鹿児島	1	21	12	4	37
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	227	3255	1192	602	5049

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■ツバメのねぐら入り観察会を開催しました■

今年、普及室では、多摩川河川敷でツバメのねぐら入り観察会を２回開催しました。当日の様子をご報告いたします。

【日時】７月 30 日（日）、８月６日（日）
18 時 00 分～19 時 30 分
【場所】多摩川河川敷（東京都大田区）
【参加者】13 組 21 名（7/30）
14 組 26 名（8/6）
【スタッフ】５名（7/30）、７名（8/6）
【配付物】ツバメのねぐらマップ、入会案内
8/6 のみ、提供のニコンようかん、飲み物
※8/6 は、（株）ニコンイメージングジャパン協賛

▲観察の様子

■広報

パンフレット「探鳥会のご案内」（45,000 部）と「一斉メール送信」（48,276 件）によって、小冊子の申込み者等へ広報をしました。観察場所が広くないため定員は 20 名としました。応募者は、7/30 が 137 組 212 名、8/6 が 137 組 235 名あり、抽選で参加者を選びました。

■開催場所

昨年から、普及室では、職員が 2013 年から観察・調査をしている多摩川河口近くの河川敷（東京都大田区）で開催しています。

観察場所からツバメがねぐらをつくるヨシ原までやや距離がありますが、今年は約３千羽が集まっていました。

■観察会の内容

17:45～18:00	＜受付＞	集合場所は、六郷土手駅の改札外。目印の「夜光ブレスレット」を渡し、広場がある河川敷へ誘導。
18:00～18:05	＜挨拶＞	河川敷にて、スタッフ紹介、撮影許可、流れの説明。
18:05～18:20	＜移動＞	観察場所まで移動。徒歩約 15 分。
18:20～18:30	＜双眼鏡の貸出、配付物の配布、ねぐらの説明＞	
18:30～19:10	＜ねぐら入り観察＞	
19:10～19:20	＜バードメイト寄付の案内、双眼鏡回収、解散＞	

ツバメのねぐらの説明

説明には、ツバメのねぐらマップを使用しました。ツバメの１年を通した生活史、ツバメのねぐらとは何か、ねぐらをつくる理由、どこにつくるか、ヨシ原の大切さや現状について簡単にお話しました。

特に、ヨシ原の保全や当会の取組みにも目を向けていただけるよう「ヨシ原は、多くの生き物にとって大切な環境であるが、減少が続いていること」「日本野鳥の会では観察会を通してツバメやヨシ原の大切さを普及していること」

を伝えました。

▲説明資料。「ツバメのねぐらマップ」のツバメの説明の部分を１ページずつA3に拡大コピー。それぞれラミネートし、穴をあけて紐で閉じ、見開き３ページになるようにした

▲説明の様子

ツバメのねぐら入り観察

ねぐらの説明が終わったころ、ツバメが少しずつ集まりだしました。両日とも、観察場所とヨシ原の間にある水面をツバメが飛び交う様子が見られ、あちこちから歓声があがっていました。8/6は、ニコン双眼鏡「WX」のお試しや、高感度カメラと連動したタブレットの画面でもねぐら入りを楽しんでいただきました。

バードメイト寄付の案内

暗くなり観察が難しくなってきたところで、ランプを点け、当会の活動紹介と１口1,000円のバードメイト寄付の案内をしました。ツバメのピンバッチを用意したところ、7/30は14口、8/6は18口のご寄付をいただきました。

■まとめ

ツバメのねぐら入り観察会への応募は、計400名を超え、一般の方からのツバメの人気の高さを改めて実感しました。

今回初めて、バードメイト寄付の案内をしたところ、多くの方にご協力をいただくことができました。テーブルを出し、キャンプ用の明るいランプを使ったことも注目が集まり、良かったのかもしれません。これまでツバメのねぐら入り観察会では、参加者が多く集まる一方、暗くなるため、会のアピールがしづらいという側面も聞かれました。支部におかれましても、お試し入会などその場で参加者がアクションを取れる案内をすることで、参加者との接点に繋がる可能性があるのではないかと感じました。

（普及室／堀本理華）

■2017年度版「探鳥会保険のご案内」を発行いたします■

毎年８月に、財団が契約している探鳥会保険の契約更新を行っています。契約更新に合わせて、「探鳥会保険のご案内」を改訂して支部の事務局へお送りいたします。

今回の改訂での変更点は、右の２点です。

今後とも、探鳥会保険の件でご不明のことがございましたら、お気軽にお問合せください。

① ５ページ目＜保険の対象になりますか？＞Q3の回答にて、（リーダーも含む）という文言を追加
② ７ページ目＜その他＞Q30とその回答を追加

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信８月号の電子メール版の購読者数は、先月と同じ 881 名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表２．探鳥会スタッフ通信８月号電子メール版の購読者数（2017 年8月17 日現在）

支部	購読者数
小清水	1
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	72
旭川支部	3
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	4
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	1
青森県支部	1
弘前支部	4
秋田県支部	3
山形県支部	4
宮古支部	1
もりおか	4
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	22
栃木	59
群馬	24
吾妻	1
埼玉	37
千葉県	21
東京	64
奥多摩支部	48
神奈川支部	21
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29

支部	購読者数
福井県	10
長野支部	1
軽井沢支部	1
諏訪	6
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	3
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	9
愛知県支部	44
岐阜	5
三重	19
奈良支部	2
和歌山県支部	4
滋賀	19
京都支部	30
大阪支部	26
ひょうご	15
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	12
岡山県支部	27
広島県支部	9
山口県支部	3
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	15
北九州	11
福岡支部	12
筑豊支部	21
筑後支部	6
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	1
合計	881

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

こちらは梅雨に戻ったかのような、雨が降ったり止んだりの天気が続いております。みなさまはいかがお過ごしでしょうか？

このところ、探鳥会や会議で支部のみなさまとお会いする機会や、メールのやり取りをさせていただく機会がだんだんと増えてきました。これまでにやり取りをさせていただいた方々のことを思い浮かべながら配信ができるのは嬉しいです。まだお会いしたことがないかたも、探鳥会や会議で、直接お会いできることを楽しみにしております。

（普及室／井上奈津美）

訂正）７月号２ページ目 28 行目「毛繕い」は、正しくは「羽繕い」でした。お詫びして訂正いたします。

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 53 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017 年８月 18 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org